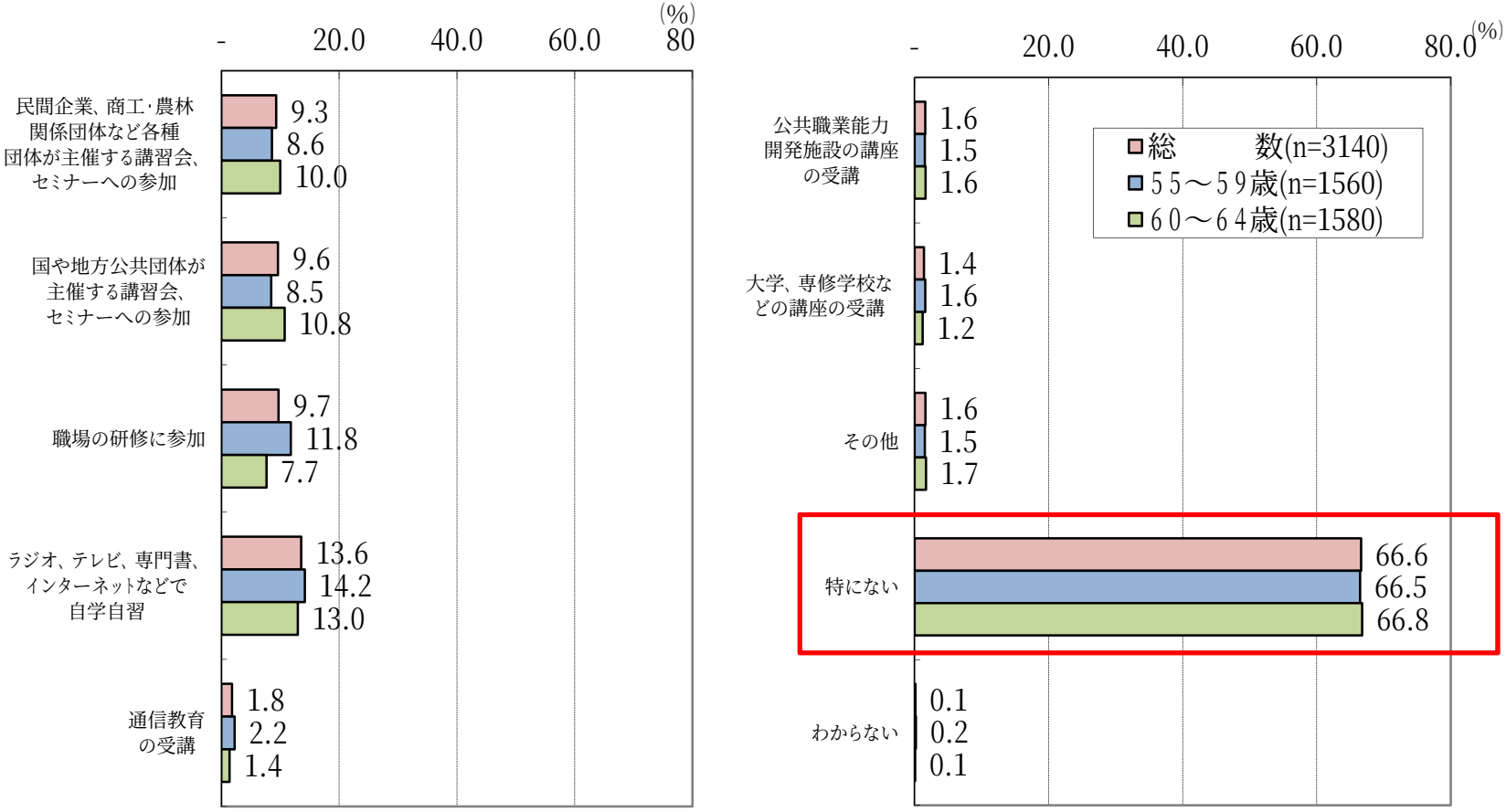
○ 高齢期に備えての自己啓発･学習をしていない人は約3分の2と多い

高齢期に備えて、過去1年間に、自分の能力や意識を高めるために参加したり、行ったりしたことはありますか？



資料：内閣府「中高年者の高齢期に備えての意識に関する調査」（平成20年） ※対象は55歳～64歳の者

①高齢化の状況

②家族と世帯

③健康・福祉

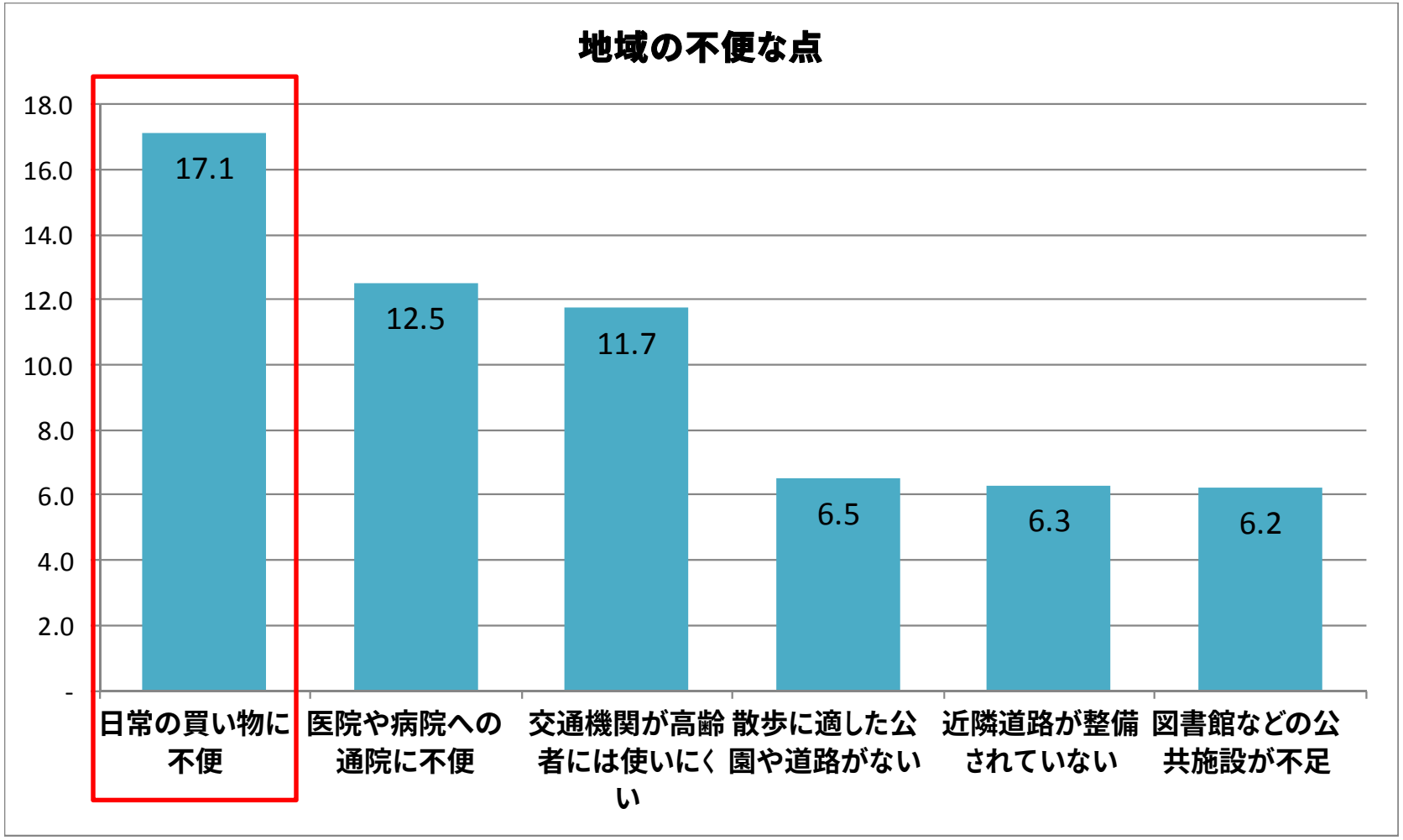
④経済状況

⑤就業

⑥社会参加活動

⑦生活環境

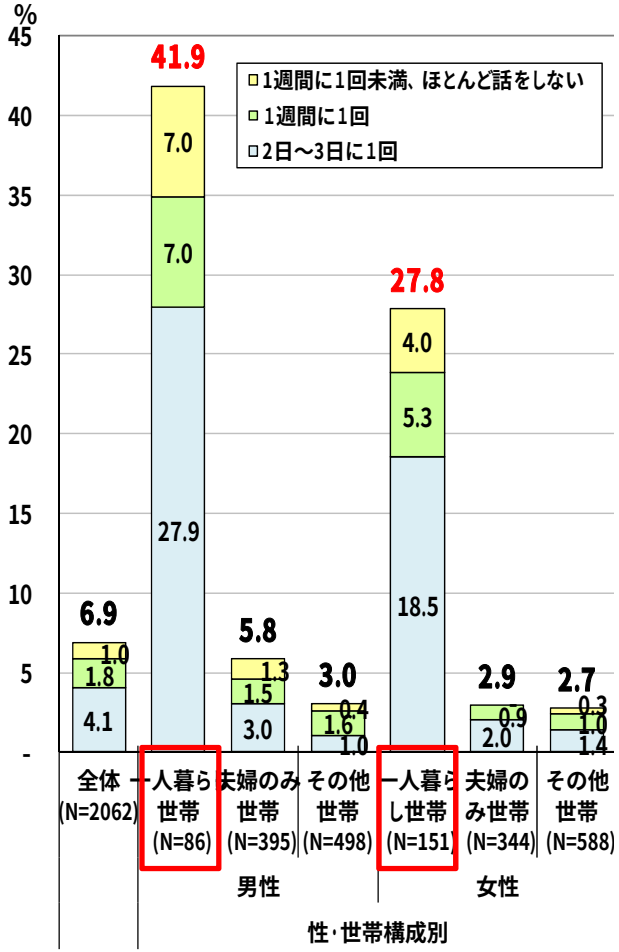
○ 「日常の買い物に不便」など日常生活に不可欠な事柄に不便を感じる高齢者が存在



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成22年）

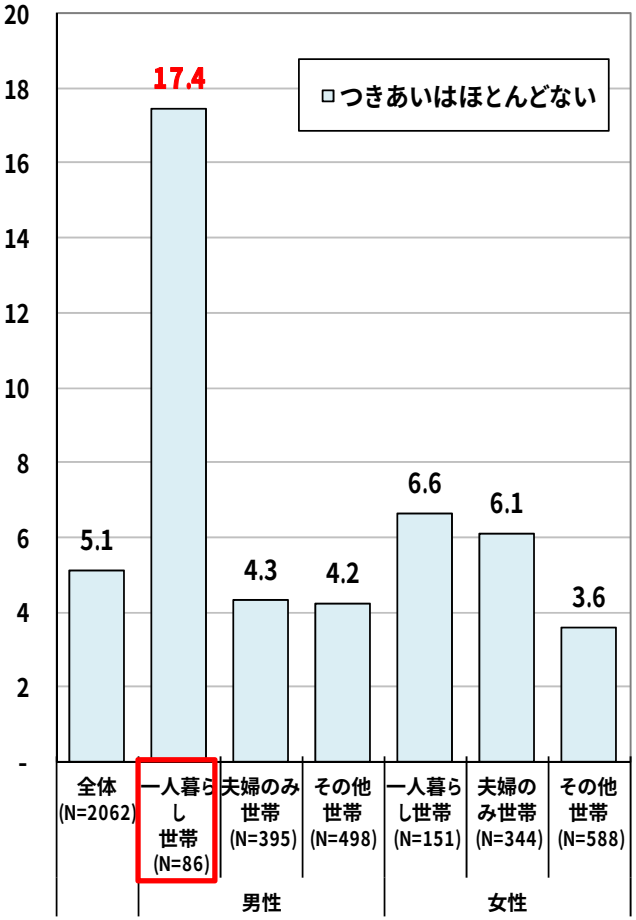
○ 一人暮らし世帯の高齢者は、他の世帯と比較して会話や近所づきあいが少ない

<会話頻度>あなたは普段どの程度、人（同居の家族を含む）と話しますか？（電話やEメールも含む）



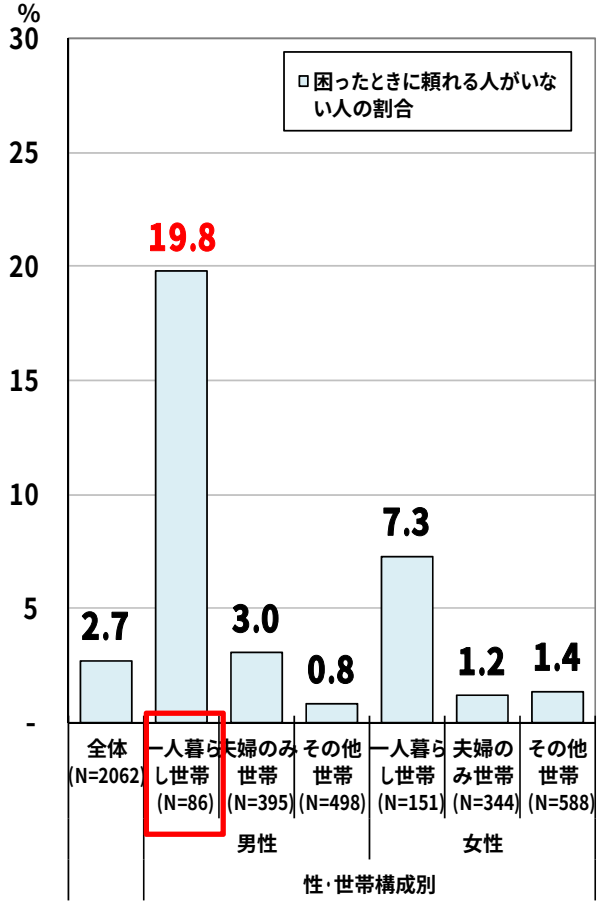
資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成22年）
（注）上記以外の回答は「毎日」または「わからない」

<近所づきあい>ふだん、近所の人とのつきあいがほとんどない人の割合



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成22年）

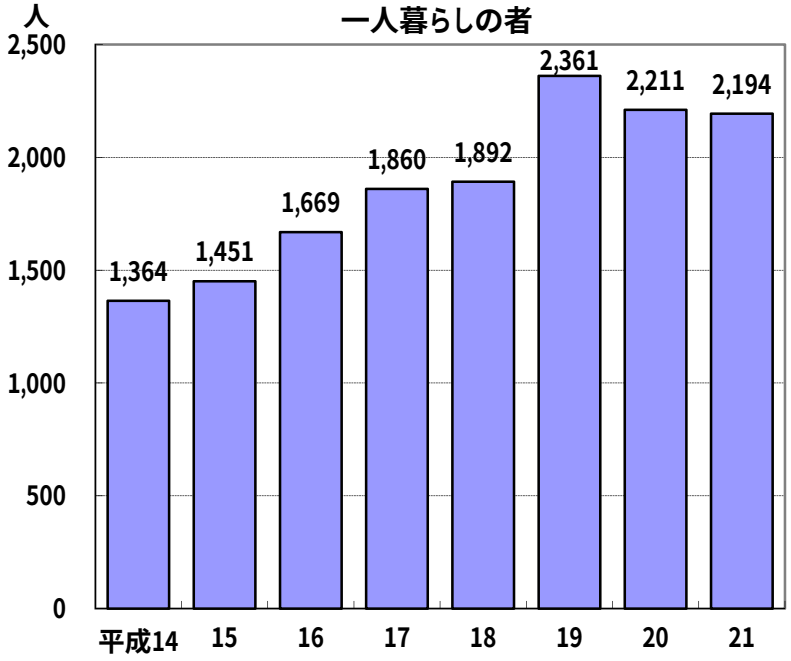
困ったときに頼れる人がいない人の割合



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成22年）

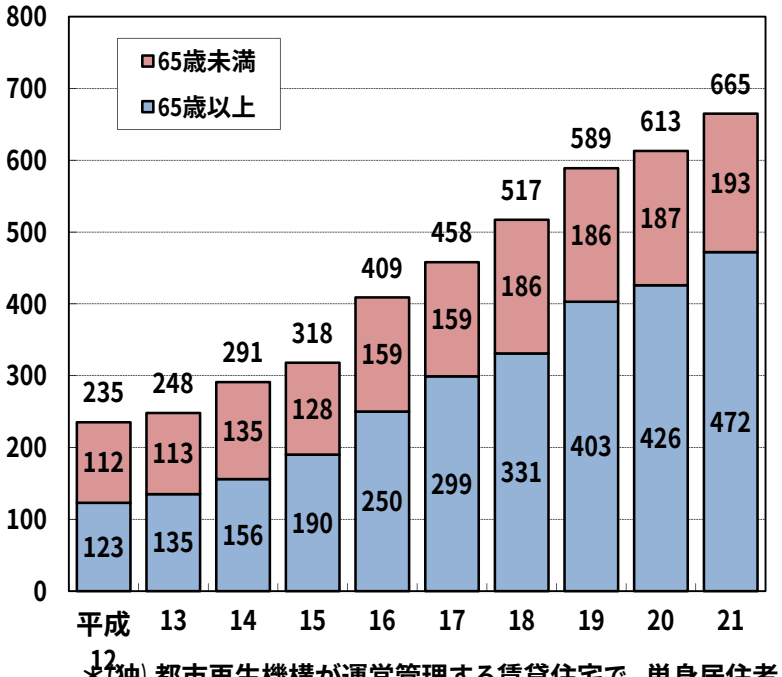
○ 高齢者の孤立死が増加傾向

東京23区内で自宅で死亡した65歳以上
一人暮らしの者



資料：東京都監察医務院「事業概要」

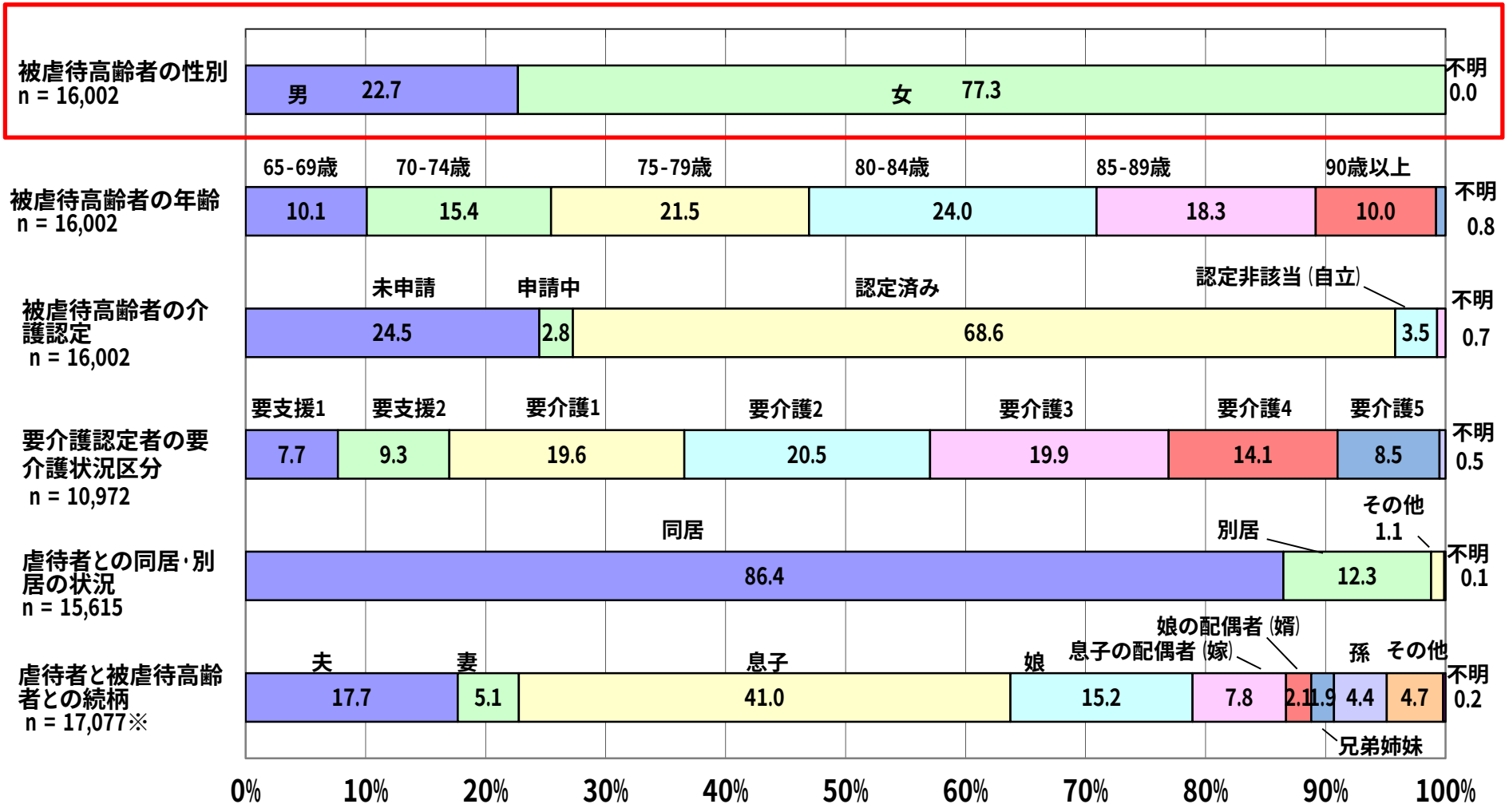
(独) 都市再生機構における「孤立死*」の
発生状況



＊(独) 都市再生機構が運営管理する賃貸住宅で、単身居住者が誰にも看取られることなく、賃貸住宅内で死亡した件数

○ 虐待を受けている高齢者は7割が女性

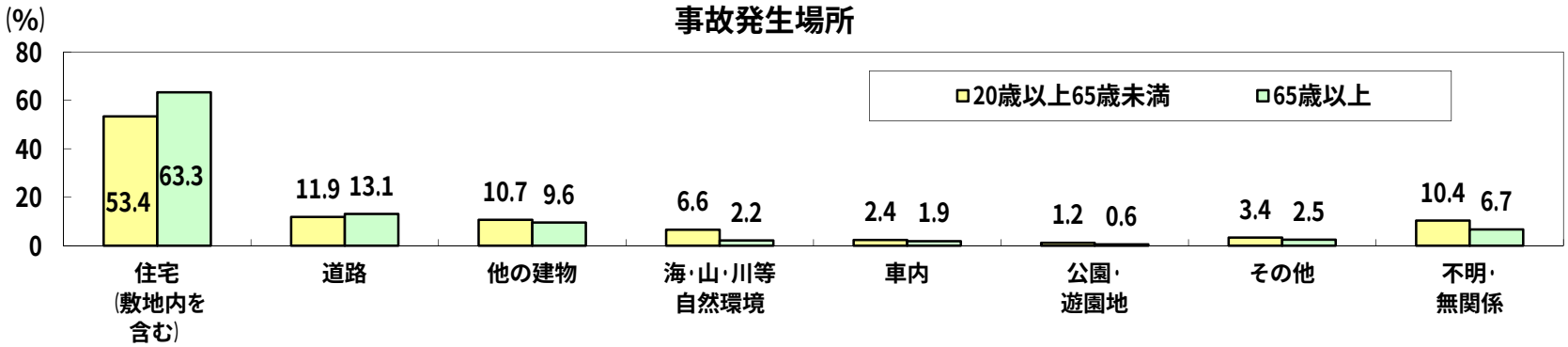
虐待を受けている高齢者の属性

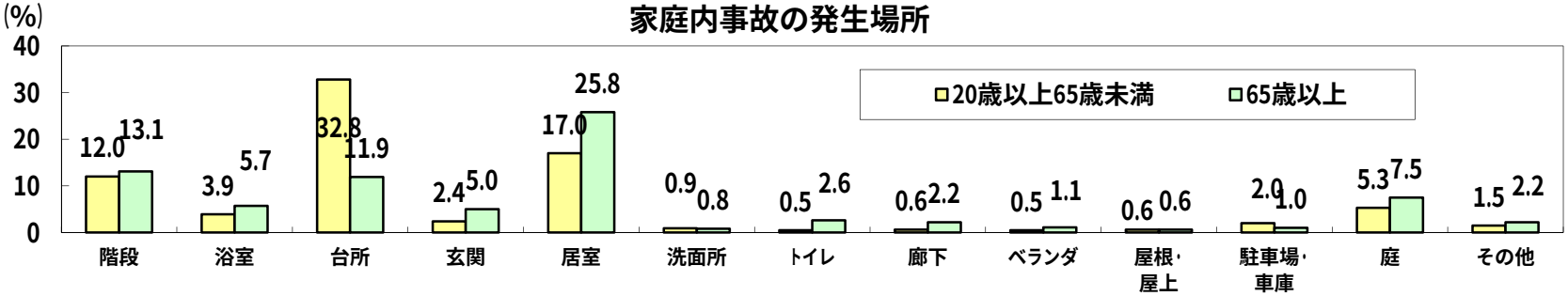


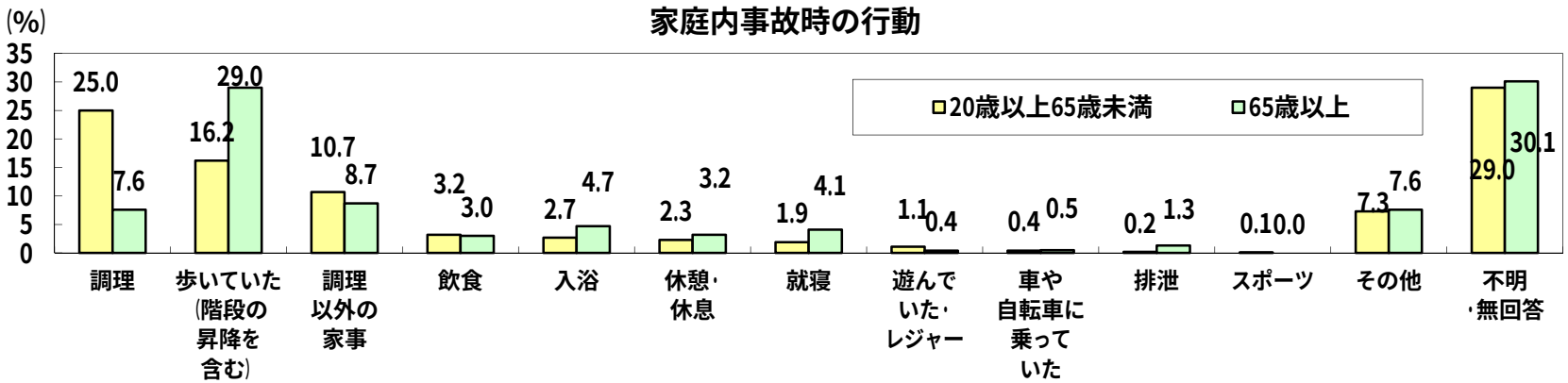
資料：厚生労働省「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果」（平成21年度）
※1件の事例に対し虐待者が複数の場合があるため、虐待判断事例件数と虐待人数は異なる。

○ 高齢者は家庭内事故が多く、最も多い事故時の行動は「歩いていた（階段の昇降を含む）」

高齢者の家庭内事故

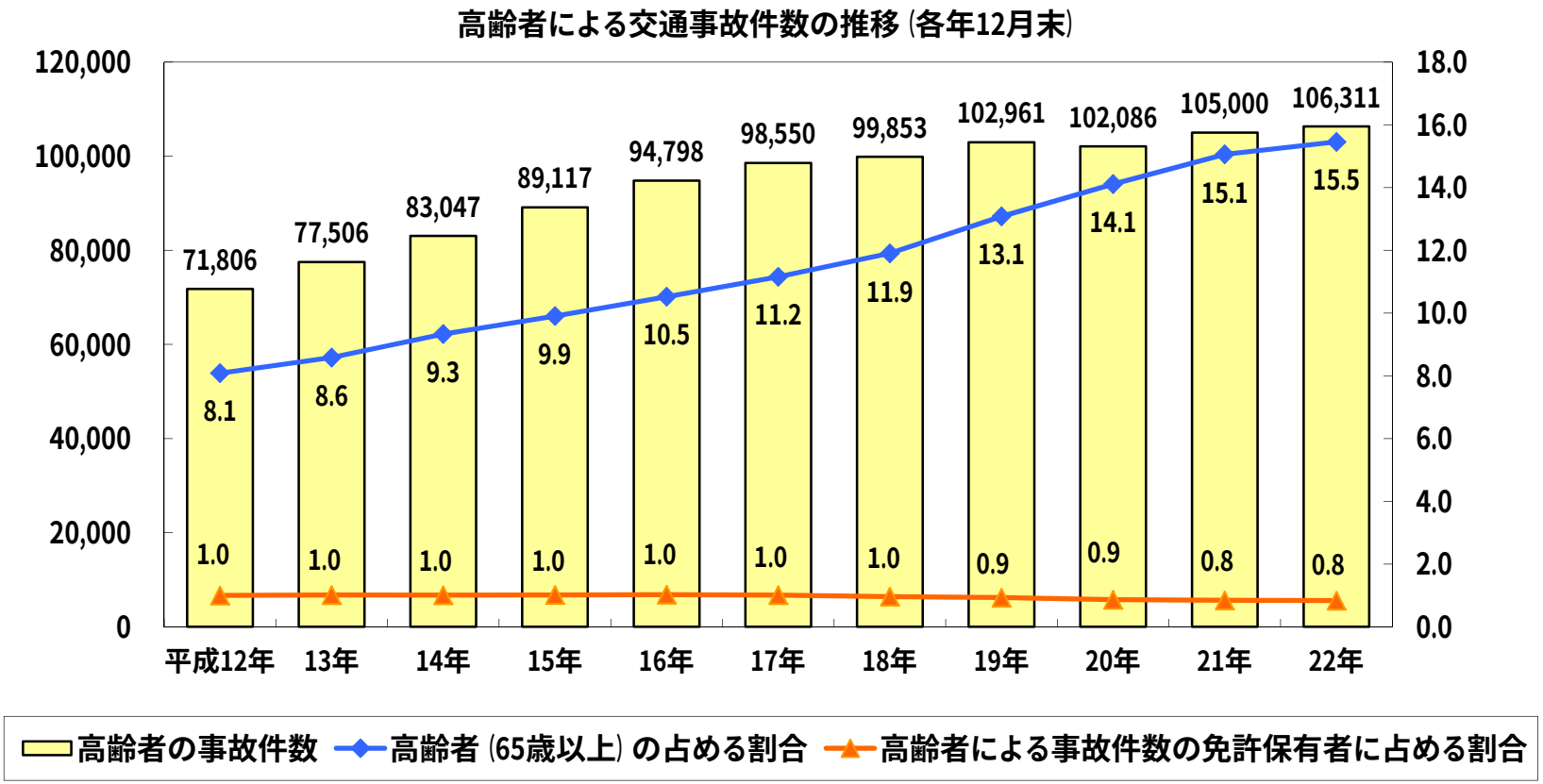






資料：国民生活センター「病院危害情報からみた高齢者の家庭内事故」（平成20年）
※家庭内事故の発生場所については、不明・無回答を除く。

○ 高齢運転者による交通事故件数が、高い水準で推移



資料：警察庁「平成22年中の交通事故の発生状況」
「平成22年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取り締まり状況について」

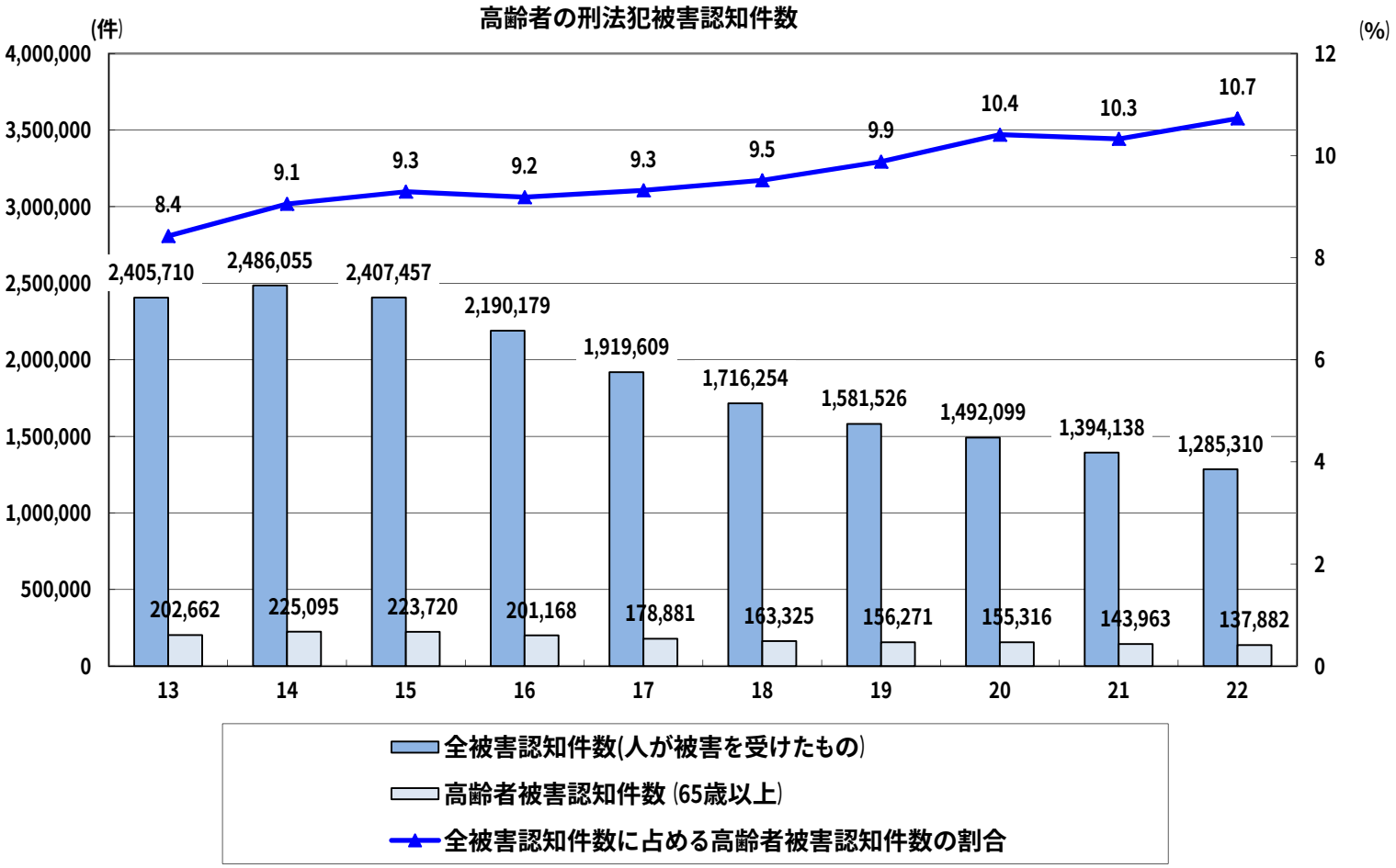
(注1)原付以上運転者（第一当事者）としての交通事故件数
(注2)第一当事者とは、事故の当事者のうち過失の最も重い者又は過失が同程度である場合にあっては人身の損傷程度が最も軽い者をいう。

○ 高齢者の交通事故死者数は減少傾向にあるが、交通事故死者数全体に占める高齢者の割合は上昇傾向

資料：警察庁「交通事故統計」、総務省統計局「人口推計」より内閣府作成

(注) ()内は、交通事故死者数全体に占める65歳以上死者の割合。

○ 高齢者の刑法犯被害認知件数は減少傾向にあるが、全被害認知件数に占める高齢者被害認知件数の割合は、依然高い



資料：警察庁の統計による（「平成22年の犯罪」ほか）

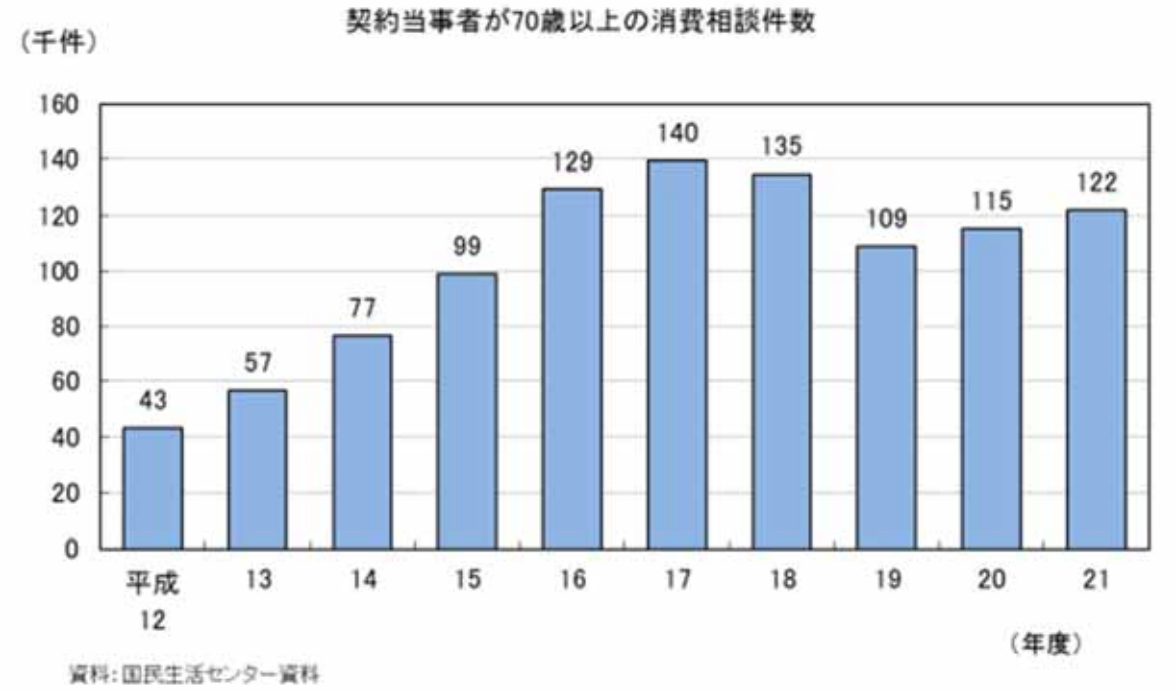
○ 振り込め詐欺の被害者の6割以上が高齢者であり、70歳以上の高齢者からの消費トラブルに関する相談が依然として10万超

振り込め詐欺の被害者性別・年齢別構成（平成22年中）

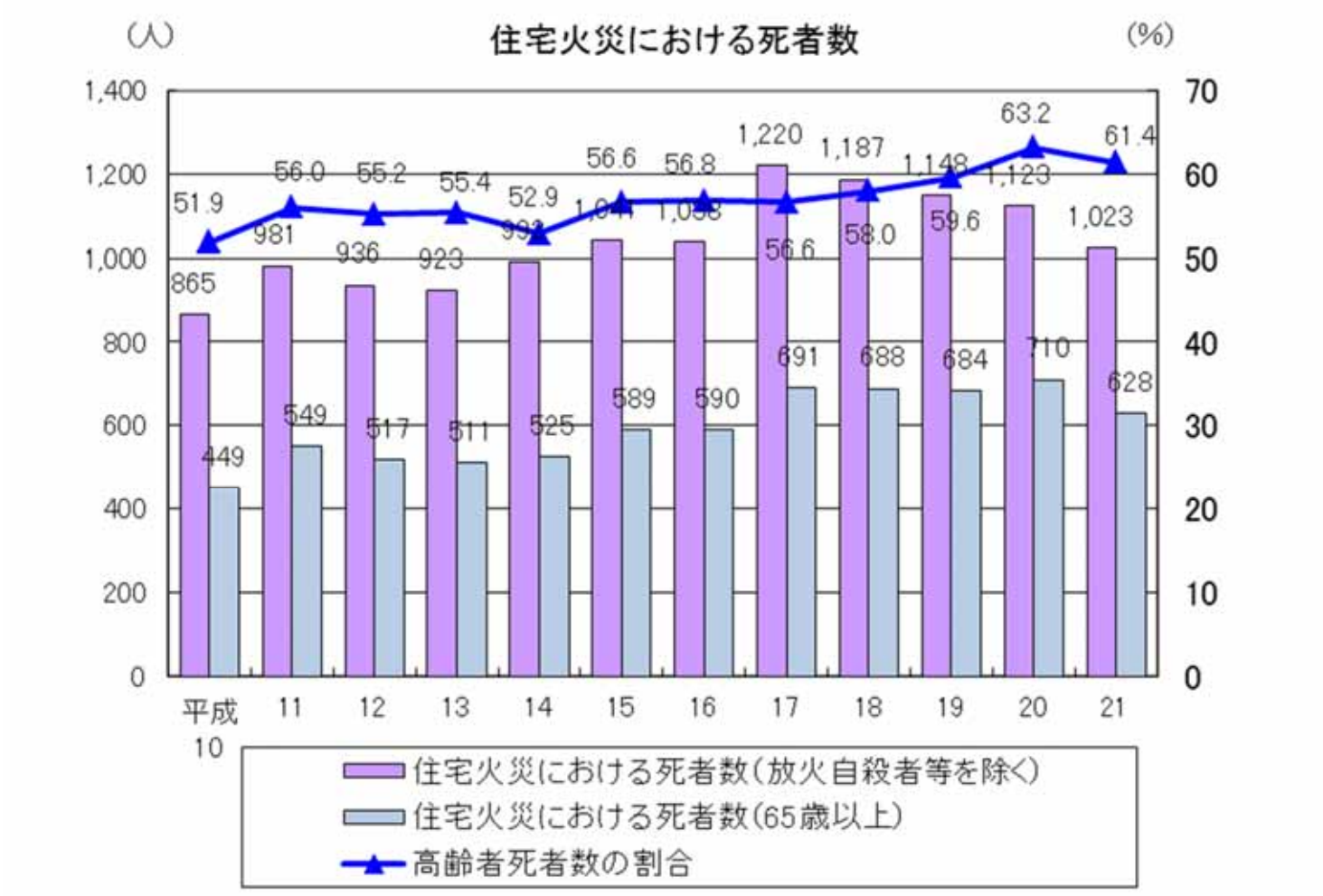
	合計	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上
男（%）	24	3	3	3	3	6	5	2
女（%）	76	3	2	2	7	19	25	17

注：本表は、各欄それぞれ四捨五入したものを記載しているので、数値の合計が一致しない。

資料：警察庁「平成22年の犯罪情勢」（振り込め詐欺の被害者性別・年齢別構成（平成22年中））



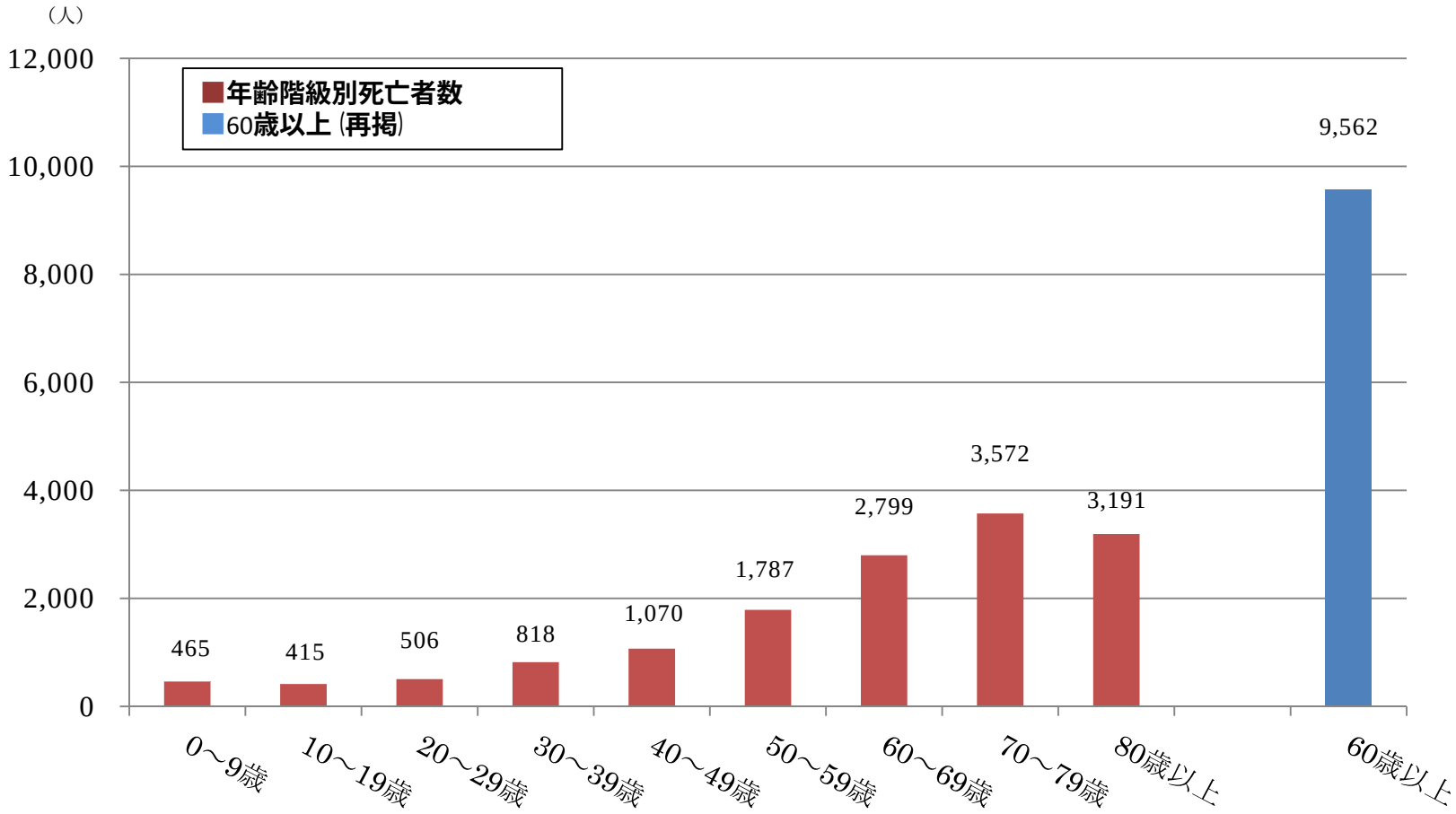
○　高齢者の住宅火災による死者数は減少傾向



資料:消防庁「平成21年(1月～12月)における火災の状況(確定値)」

○　東日本大震災における犠牲者の65.4%が60歳以上の高齢者

年齢階級別死亡者数



資料：警察庁「東北地方太平洋沖地震による死者の死因等について【3/11～9/11】」

※岩手県、宮城県及び福島県において収容された遺体のうち、検視等を終えて年齢が判明している者を集計